

働く女性Real Vol.4-2  
『夫婦のお財布事情～将来設計編～』  
調査レポート

2017.07

リビング暮らしHOW研究所

## 家計のための資産の主な目的は 40代以下「教育費」、50代以上「老後資金」

- 家計のための資産（貯蓄・保険・株式など）を管理している人は「主に妻」が最多で56.5%。
- 資産の合計額は年代で差があり、20代・30代は「100万円未満」が最も多く、それぞれ3割程度。「1500万円以上」が最も多い年代は、50代で20.4%、60代では25.5%。
- 家計のための資産の目的も年代で異なり、40代以下は主に「教育費」（20代以下57.6%、30代69.4%、40代59.5%）。

「住宅購入」「万が一の時の備え」は30代以下のポイントが高い。

50代以上のポイントが高いのは、「老後資金」（約7割）や「住宅リフォーム」（約2割）。

## 家計について話し合う頻度が高い30代以下 50代以上は「ほぼ話し合ったことがない」3割超

- 子どもがいる人に、子どもの教育費について夫婦で話し合った経験を聞くと、40代以下は7割近くが「ある」と回答。

教育費の準備を始めている人は30代以下は約8割で、「教育費として分けて」管理している人が約6割と多数派。

40代でも76.5%が準備をしていて、教育費の負担は大きい。

50代では過半数が、60代では9割近くが教育費から解放されている。

- 老後資金について夫婦で話し合ったことがある人は年代が上がるにつれ増え、50代で半数を超え、60代では64.8%。

老後資金の準備を始めている人は、20代以下では約3割だが、40代で半数を超え、60代では7割を超える。

- 夫婦で家計について話し合う頻度は、ライフイベントの多い若い世代ほど多く「毎月のように頻繁に」という人が、20代では45.9%、30代では27.1%。

また、子育て中の人が多い30代・40代では「子どもの入学などでライフステージが変わるときに」という人が2割強。

50代以上は「毎月のように頻繁に」という人が2割程度いるものの、「ほぼ話し合ったことがない」が3割を超える。

## 将来を考えると今の家計に「不安あり」が7割。 40代が「不安」のピーク

- 将来を考えた時に、今の家計に不安がある人は、全体の76.2%。

妻の働き方別にみると、妻が会社員の人是最も不安が少ないが、それでも68.7%が不安を感じている。

- 年代別に見ると、40代が79.6%で最も不安が大きい。子どもや親のことなど、不確定要素が多い年代のためか。
- 50代以降は、不安を感じる人の割合は徐々に減り、60代では「あまり不安ではない」「まったく不安ではない」合わせて4割超。
- 不安に思う理由のFAでは、「年金がどれくらいもらえるか？」「老後資金や子どもの教育費など、どれくらい必要かわからない」など、マネープランが明確でないことへの不安を挙げる人が目立つ。

### 【40代以下の働くママの特徴】

子育て真っ只中の40代以下の働くママ（パート・アルバイト含む、n=350）の特徴を確認した。

- 家計のための資産は「100万円未満」25.3%、「100万円～300万円未満」19.3%がボリュームゾーン。

一方、「1000万円以上」の人も16.3%いる。

資産の使用目的の上位3つは「教育費」79.2%、「万が一の時の備え」58.0%、「老後資金」49.1%。

- 家計で削減したい支出は「通信費」40.6%が最多。次いで、「水道光熱費」34.6%、「普段の食費」33.4%。（～家計の分担編～より）

費用をかけたいものは「ない」が32.6%で最も多いが、「子どもの塾・習い事」26.9%への関心は高め。

- 子どもの教育費について、夫婦で話し合ったことがある人は67.1%。教育費の準備を始めている人は78.2%。

- 老後資金について、夫婦で話し合ったことがある人は37.7%で、老後資金の準備を始めている人は約半数。

- 夫婦で、家計について話し合う頻度は「子どもの入学などでライフステージが変わるときに」29.4%が最多。半年に1回以上話し合う人が約4割。

- 今の家計に不安を感じている人は「とても不安」「不安」合わせて約8割。不安に思う理由についてのFAでは、年金がどれくらいもらえるか？教育費がどれくらいかかるか？など先の見通しが立たないことへの不安が多く見られた。

【実施日時】 6月30日（金）～7月9日（日）

リビングWeb・シティリビングWeb・あんふあんWeb・ぎゅってWebでのアンケート

【調査対象】 既婚女性(全国) 有効回答数 /1185

### 【設問】

Q1.家計の管理は誰がしていますか？

Q2.家計簿をつけていますか？

Q3.家計の支出方法は、次のどれに近いですか？

Q3-a.夫婦で費目別に分担している人にお聞きします。次の費目について、誰が分担しているか教えてください。

【水道光熱費 通信費 普段の食費 外食費 子どもの被服費 レジャー費 教育費（学校・保育園・幼稚園関連） 子どもの塾・習い事 夫婦の保険料 子どもの保険料  
家賃（または住宅ローン） 車関係】

Q4.家計の負担比率は、どれくらいですか？

Q5.教育費や家族旅行資金など、家計のための貯蓄・保険・株式などの資産は、誰が管理していますか？

Q5-a.教育費や家族旅行資金など、家計のための貯蓄・保険・株式などの資産の総額はいくらありますか？

Q5-b.家計のための貯蓄・保険・株式などの資産の使用目的は何ですか？（複数回答）

Q6.夫の毎月のお小遣い（自分で自由に使えるお金）はいくらですか？

Q7.あなたのお小遣い（自分で自由に使えるお金）はいくらですか？

Q8.あなたの家計で、もっと削減したいと思っている支出の費目をすべて選んでください。

Q9.あなたの家計で、もっと費用をかけたいと思う支出の費目をすべて選んでください。

Q10.子どものいる人にお聞きします。これからの子どもの教育費について、夫婦で話し合いをしたことがありますか？

Q11.子どものいる人にお聞きします。将来に向けて、子どもの教育費の準備を始めていますか？

Q12.夫婦の老後資金について、夫婦で話し合いをしたことがありますか？

Q13.夫婦の老後資金の準備を始めていますか？

Q14.夫婦で、家計について話し合う頻度を教えてください。

Q15.将来を考えて、今の家計に不安はありますか？ その理由も教えてください。

Q16.夫に対して、金銭感覚のギャップを感じることはありますか？ 金銭感覚のギャップを感じる事が「よくある」「時々ある」人、どんなことにギャップを感じますか？ 具体的に教えてください。

Q17.家計のことで意見が合わなくなったことがありますか？

Q18.あなたは夫の収入を把握していますか？

Q19.夫はあなたの収入を把握していますか？

Q20.あなたは夫の「家計に関する支出」を把握していますか？

Q21.夫はあなたの「家計に関する支出」を把握していますか？

Q22.あなたは夫のお小遣い（自分で自由に使えるお金）の支出を把握していますか？

Q23.夫はあなたのお小遣い（自分で自由に使えるお金）の支出を把握していますか？

Q24.あなたは夫のお小遣い（自分で自由に使えるお金）の貯蓄・保険・株式などの資産を把握していますか？

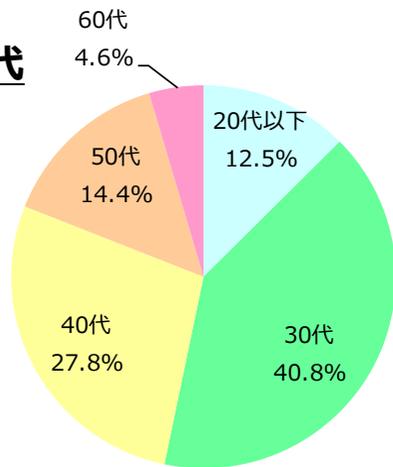
Q25.夫はあなたのお小遣い（自分で自由に使えるお金）の貯蓄・保険・株式などの資産を把握していますか？

Q26.今年、あなたの家庭で一番大きな支出をしたものは何ですか？ 金額と、内容を具体的に教えてください。

Q27.夫の年収（所得税・社会保険料なども含めた所得総額）を教えてください。

Q28.あなた自身の年収（所得税・社会保険料なども含めた所得総額）を教えてください。

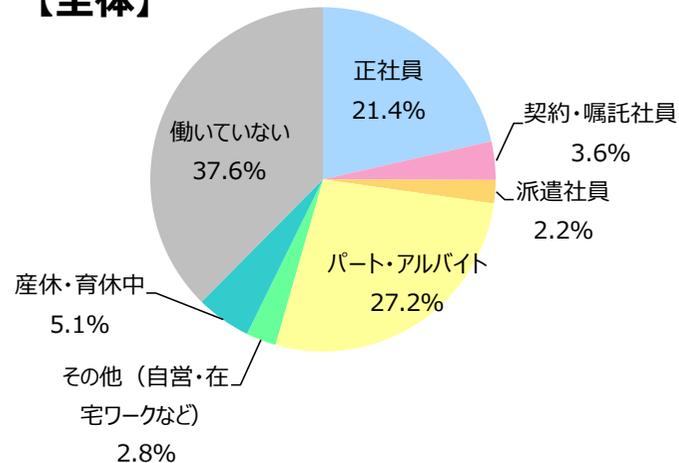
## 年代



平均年齢 41.2歳

## 妻（自分の働き方）

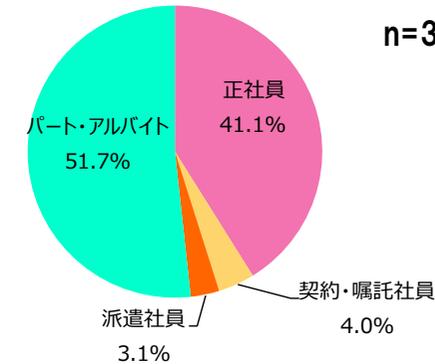
### 【全体】



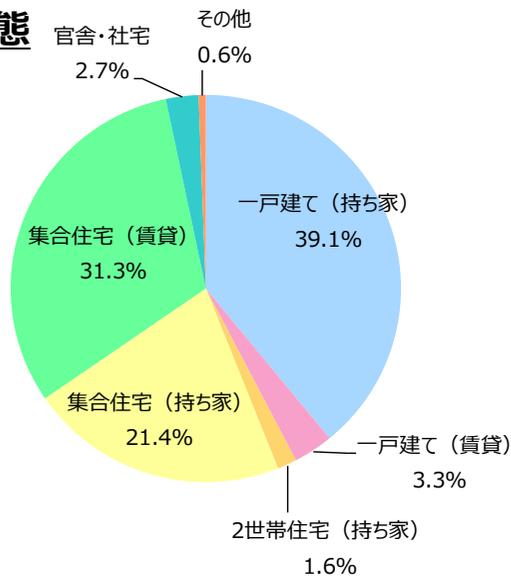
### 【40代以下の働くママ】

※パート・アルバイト含む

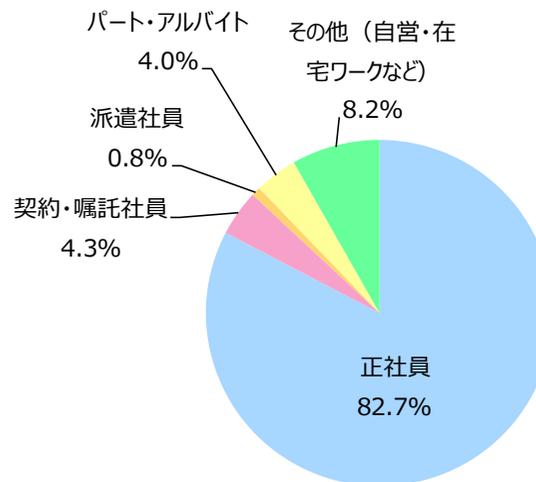
n=350



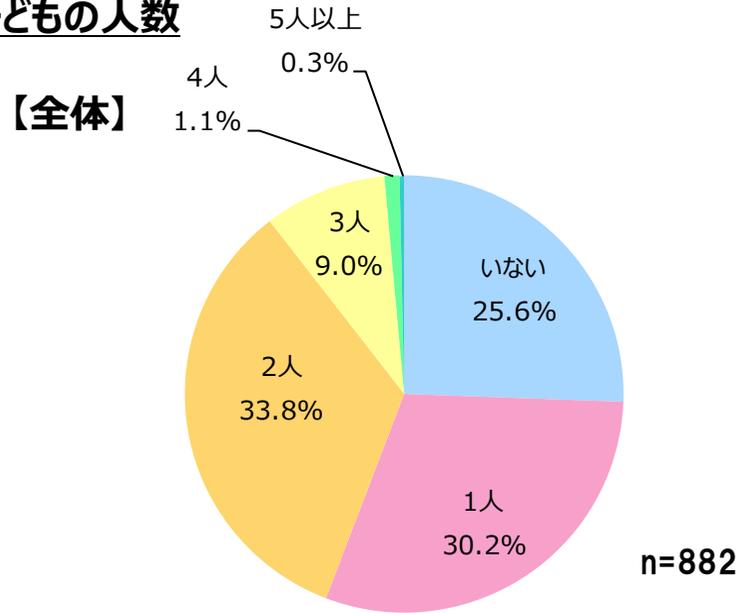
## 住居形態



## 夫の働き方



**子どもの人数**



**子どもの学齢**

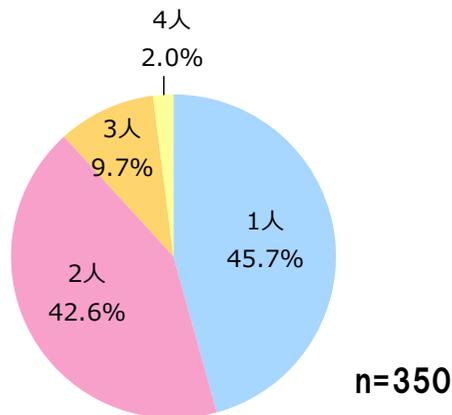
複数回答

**【全体】**



**【40代以下の働くママ】**

※パート・アルバイト含む



**【40代以下の働くママ】**

※パート・アルバイト含む

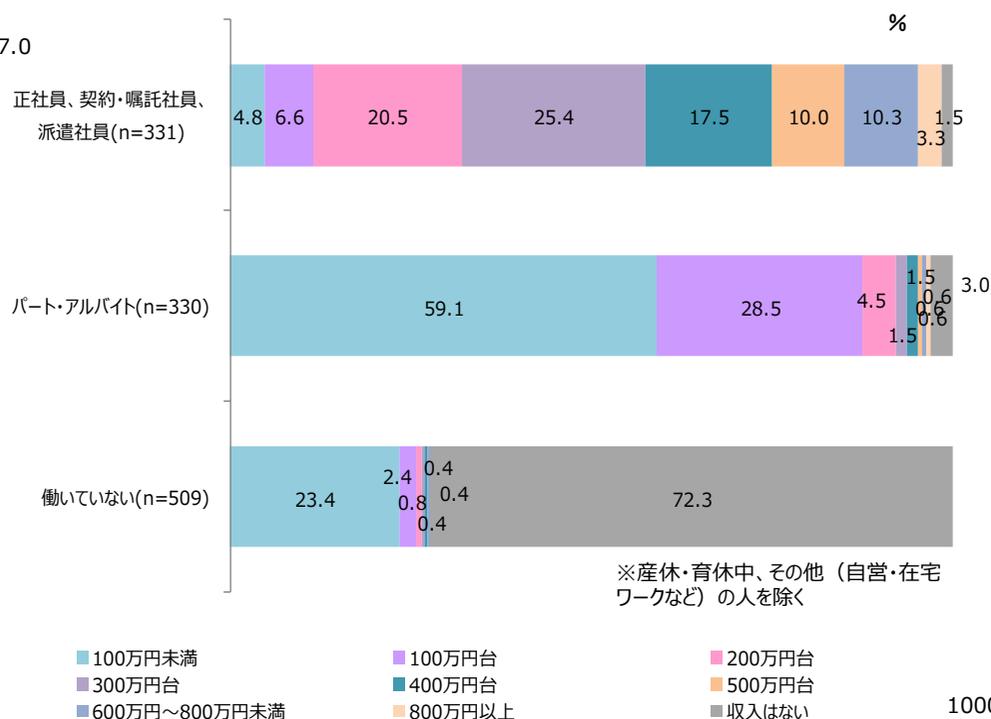


妻（自分）の年収

【全体】

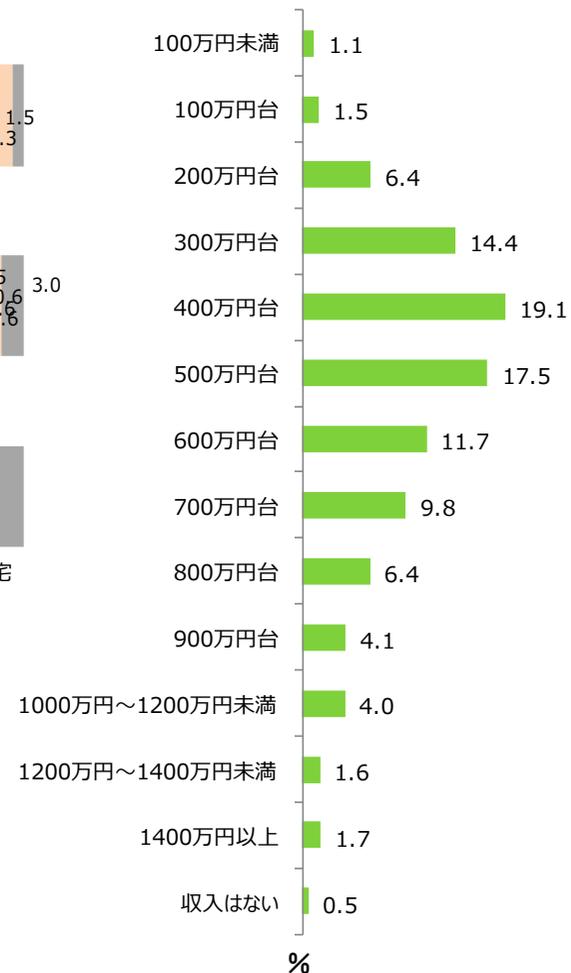


【妻の働き方別】



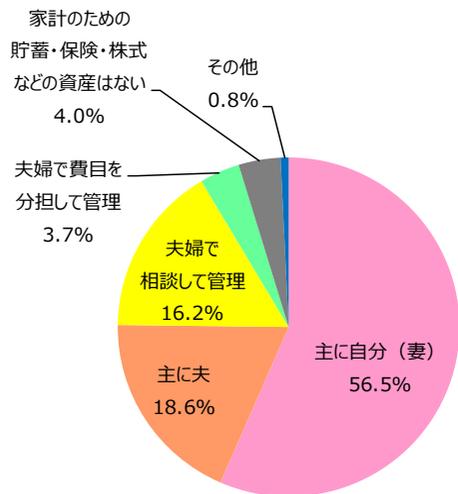
夫の年収

【全体】



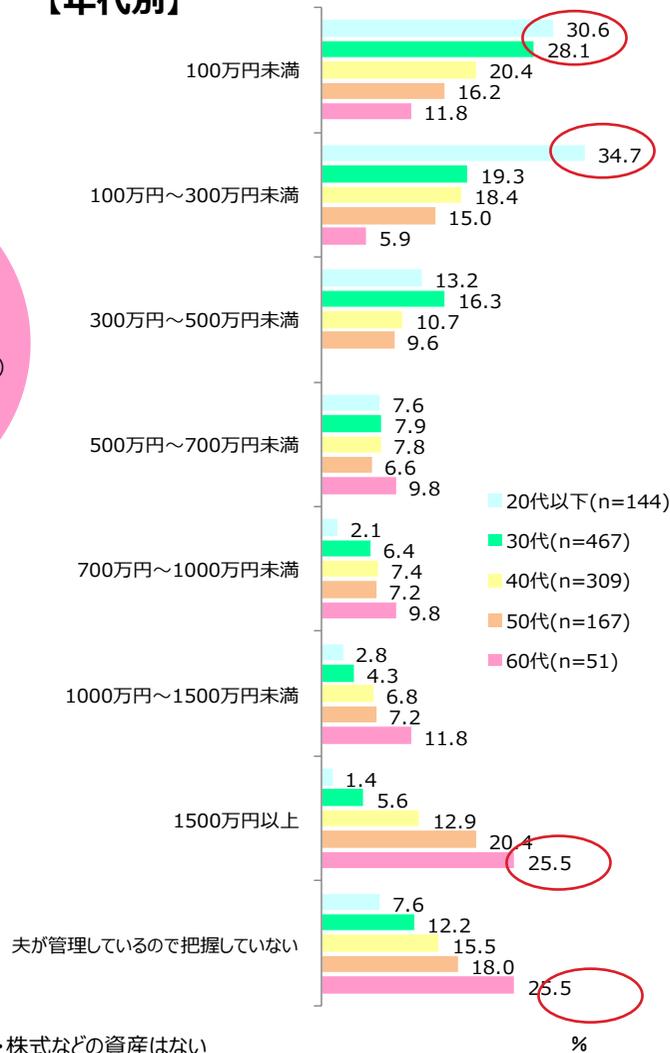
## 教育費や家族旅行資金など、 家計のための貯蓄・保険・株式などの金融資産

### 管理している人



### 総額

#### 【年代別】



※家計のための貯蓄・保険・株式などの資産はないと回答した人を除く

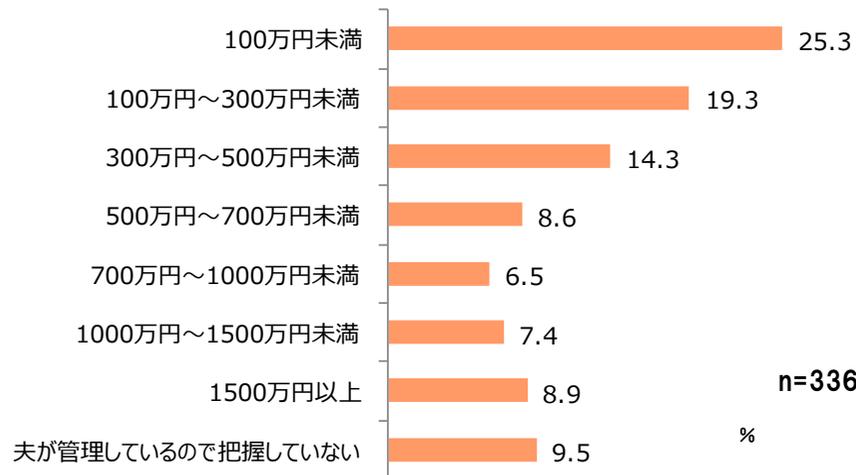
家計のための金融資産について、管理をしている人は、「主に妻」が最も多く、56.5%。

日常の家計の管理者（働く女性RealレポートVol.4-1『夫婦のお財布事情～家計の分担編～』参照）より、「主に夫」「夫婦で相談して管理」のポイントがやや高い。

家計のための金融資産の総額は年代で差があり、20代・30代は「100万円未満」の人が最も多く、各3割程度。「1500万円以上」が最も多い年代は、50代20.4%、60代25.5%。

また年代が上がるほど、「夫が管理しているので把握していない」という人が増え、60代では25.5%。

### 【40代以下の働くママ】 ※パート・アルバイト含む



n=336

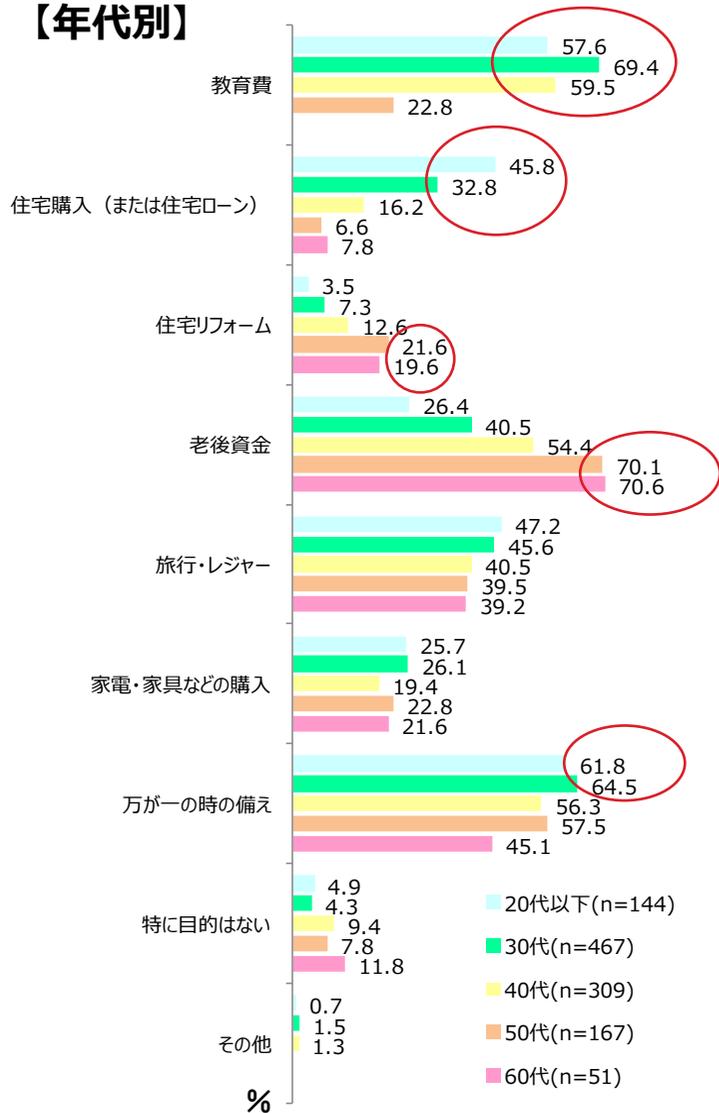
%

## 家計のための貯蓄・保険・株式など金融資産の目的

複数回答

※家計のための貯蓄・保険・株式などの資産はないと回答した人を除く

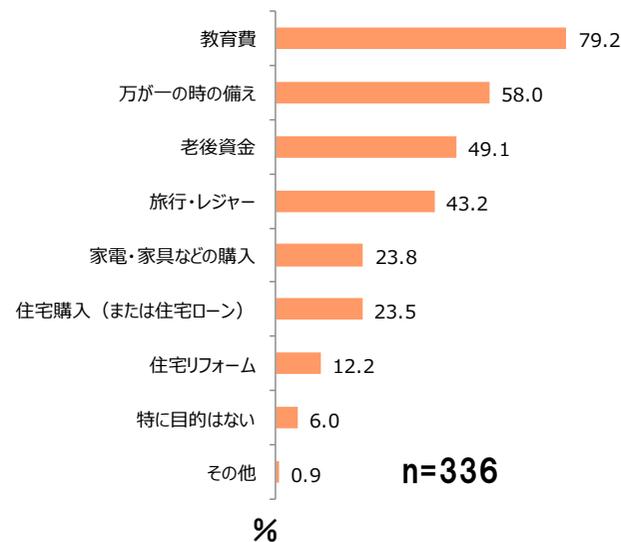
### 【年代別】



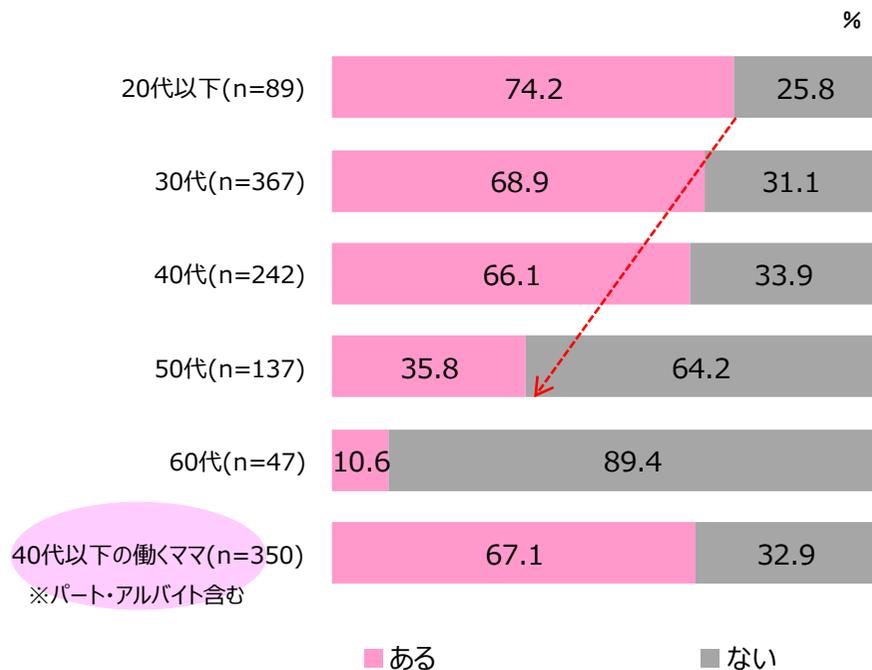
家計のための資産形成の目的は、年代で異なる。「教育費」は40代以下のポイントが高く、「住宅購入」「万が一の時の備え」は30代以下のポイントが高め。「老後資金」「住宅リフォーム」は50代以上のポイントが高い。

40代以下の働くママでは、「教育費」79.2%、「万が一の時の備え」58.0%、「老後資金」49.1%が上位。

### 【40代以下の働くママ】※パート・アルバイト含む



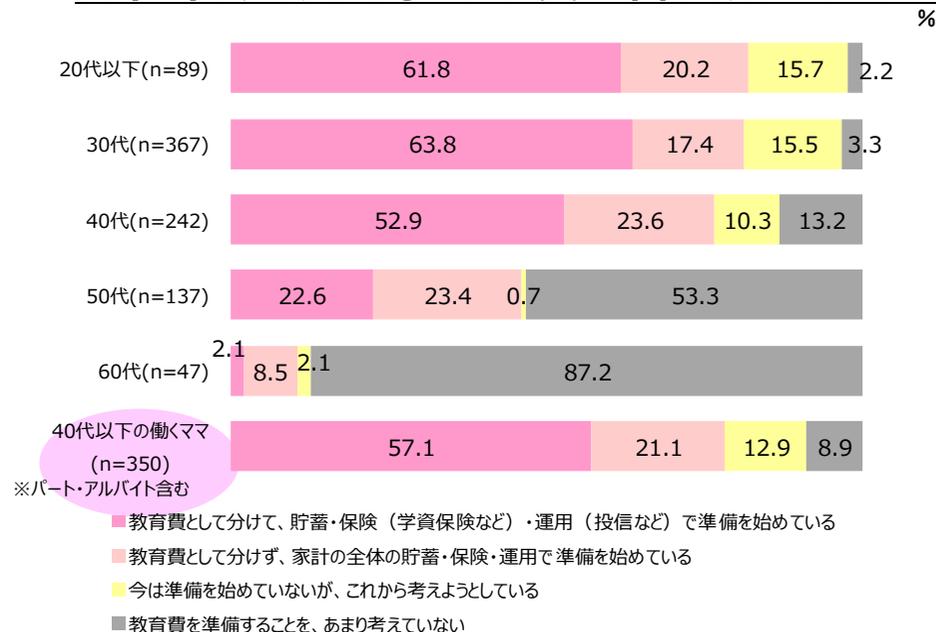
## 子どもの教育費について、夫婦で話し合ったことがあるか？



子どもがいる人に、子どもの教育費について夫婦で話し合った経験を聞くと、子どもがまだ就学中の人が多い40代以下は、教育費について7割近くが話し合っている。

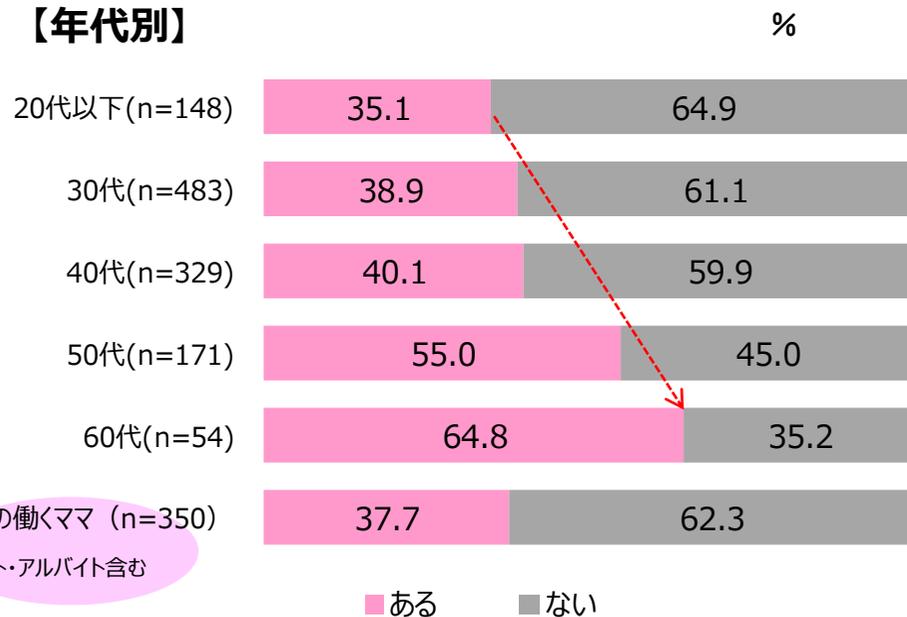
教育費の準備を始めている人は30代以下で約8割で、「教育費として分けて」管理している人が約6割と多数派。40代でも76.5%が準備をしていて、教育費の負担は大きい。50代では過半数が、60代では9割近くが教育費から解放されている。

## 将来に向けて、子どもの教育費の準備を始めているか？



## 夫婦の老後資金について、夫婦で話し合ったことがあるか？

【年代別】



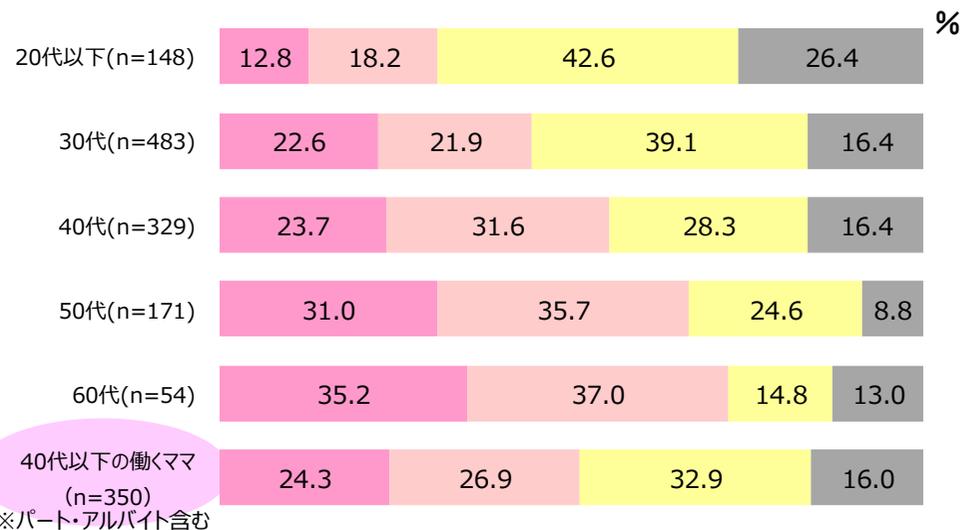
※パート・アルバイト含む

老後資金について、夫婦で話し合ったことがある人は年代が上がるにつれ増え、50代で半数を超え、60代では64.8%。  
老後資金の準備も同様で、準備を始めている人は20代以下では約30%だが、40代で半数を超え、60代では72.2%。

40代以下の働くママでは、約半数の人が、老後資金を準備し始めている。

【年代別】

## 夫婦の老後資金の準備を始めているか？

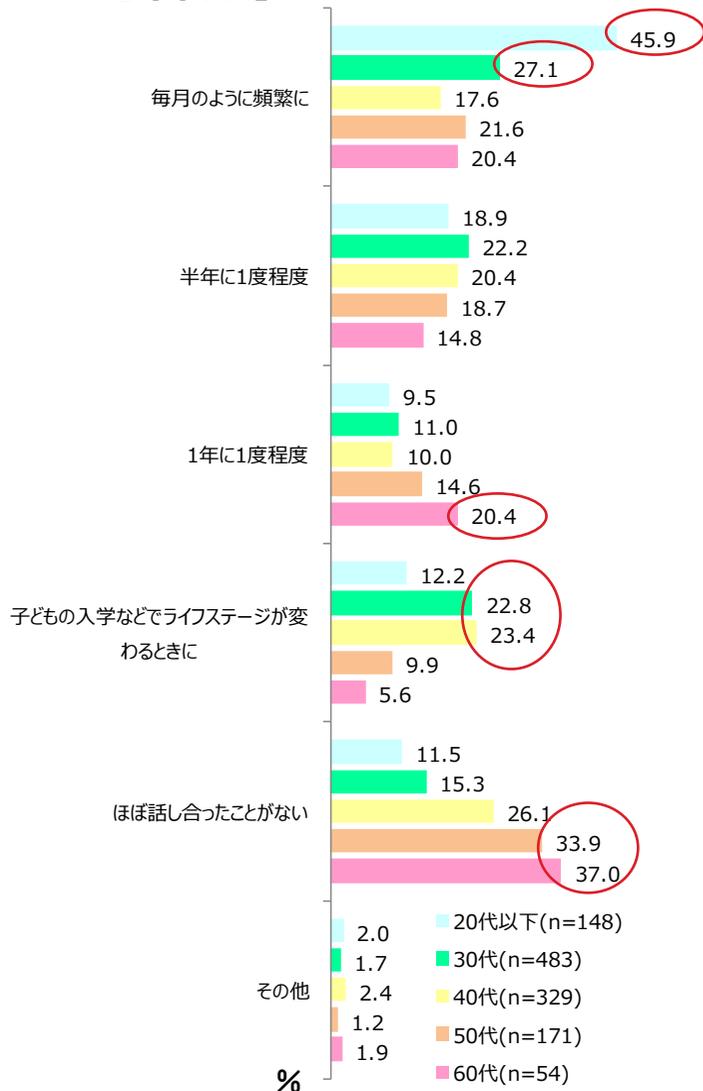


※パート・アルバイト含む

- 老後資金として分けて、貯蓄・保険・運用（投信など）で準備を始めている
- 老後資金として分けて、家計の全体の貯蓄・保険・運用（投信など）で準備を始めている
- 今は準備を始めていないが、これから考えようとしている
- 老後資金を準備することを、あまり考えていない

## 夫婦で、家計について話し合う頻度

### 【年代別】

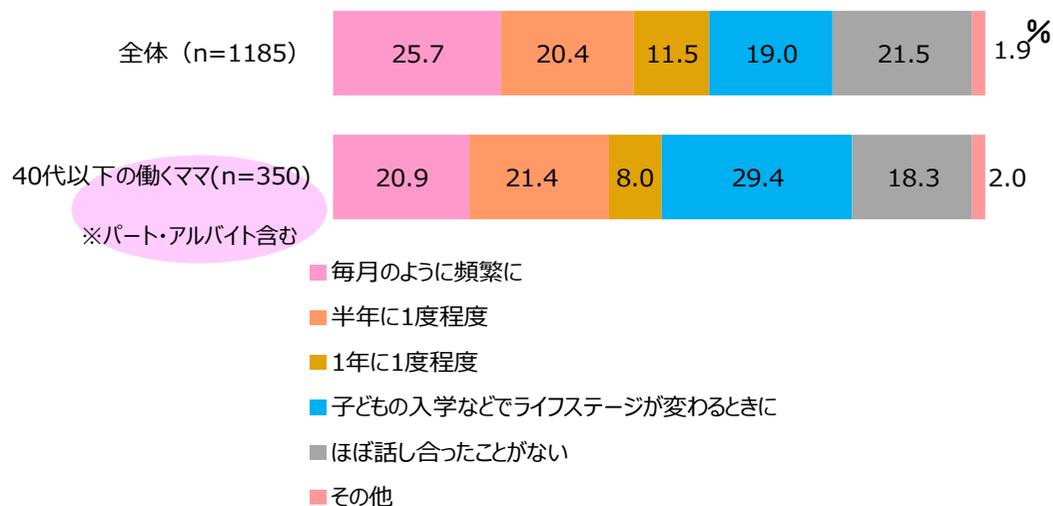


夫婦で、家計について話し合う頻度は、ライフイベントの多い若い世代ほど多く、30代以下では「毎月のように頻繁に」が最も多い。

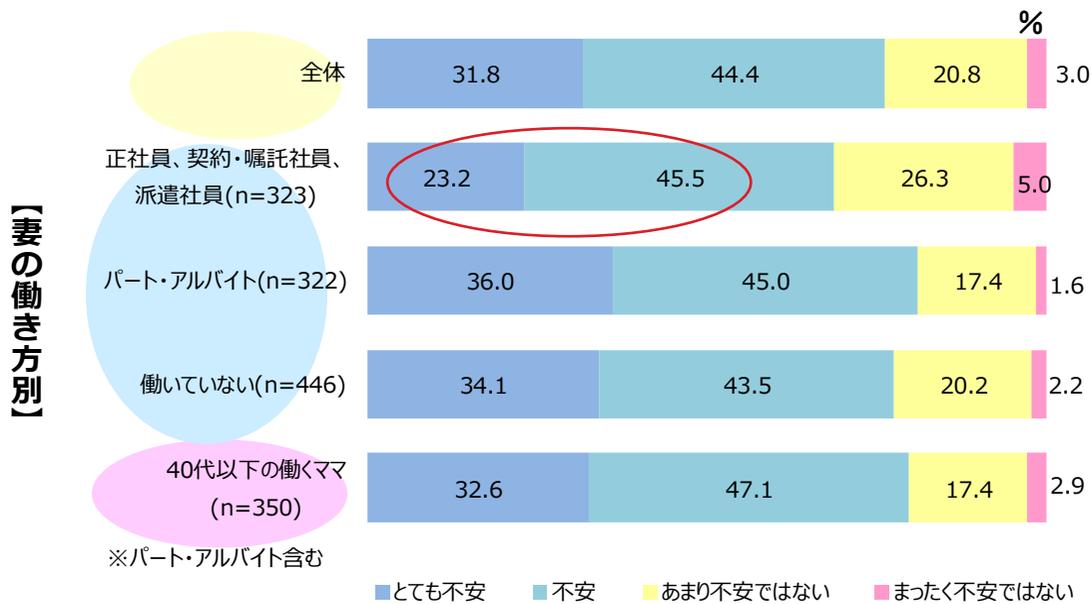
また、30代・40代では「子どもの入学などでライフステージが変わるときに」という人が、2割強。

50代を超えると、「ほぼ話し合ったことがない」という人が3割以上。

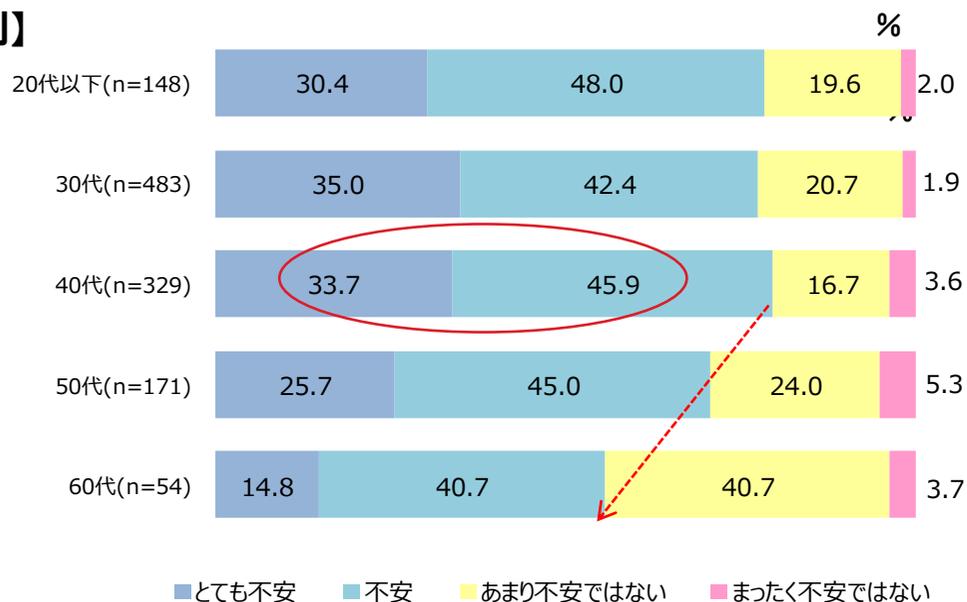
40代以下の働くママでは、「子どもの入学などでライフステージが変わるときに」が最も多く、約3割。半年に1回以上話し合う人が約4割。



## 将来を考えて、今の家計に不安はあるか？



## 【年代別】



今の家計に不安がある人は、全体の76.2%。  
妻の働き方別にみると、「正社員、契約・嘱託社員、派遣社員」の人が最も不安が少ないが、それでも68.7%。

年代別にみると、40代が79.6%と最も不安が大きい。子どものこと、親のことなど、不確定要素が多い年代のためか。

50代以降、不安を感じる人の割合は徐々に減っていき、60代では「あまり不安ではない」「まったく不安ではない」が4割を超える。

不安に思う理由のFA（次ページ）では、「年金がどれくらいもらえるか？」「老後や、子どもの教育費など、どれくらい必要かわからない」など、明確なライフプラン、マネープランが見えないという声が目立った。

「あまり不安ではない」というFAでは、「マネープランどおりにできている」「子どもが独立したので」といった意見があった。

## 将来を考えて、今の家計に不安あり・不安なしの理由

将来を考えて、今の家計に不安はあるか？	年齢	都道府県	働き方	理由
とても不安	30	長野県	パート・アルバイト	あまり貯金ができない。私も旦那も、お金があれば使ってしまう性格のため。もう少しやりくりしなくてはと、焦りはあります。
	43	沖縄県	パート・アルバイト	これからの子供の進学や老後の資金のために貯蓄はコツコツ頑張っていますが、今の月々の貯蓄額では全然足りないと思います。また、旦那があまり計画性がなくてのんびりしている性格なので私だけ悩んでいる感じです。夫婦で話し合っています。とても将来に不安をもっています。
	32	大阪府	パート・アルバイト	私達世代は年金が貰えないという話や、余裕のある生活を送ろうと思ったら2人で1億程度はいるなど、そういった将来を悲観するしかないような情報で溢れているから。
	54	大阪府	パート・アルバイト	旦那が定年過ぎてから契約社員になり、ボーナスもなく中々貯金が出来ない
	45	兵庫県	正社員	貯蓄が思うようにできていない。二人とも今は健康だからいいが、どちらか一人が病気になった場合、収入が減ったときなどどうするか・・・
	44	埼玉県	働いていない	二人の子供の大学卒業までの学費と老後必要な費用を、テレビや雑誌などで必要と言われている額まで貯める事が出来ない気がするの
不安	56	愛媛県	働いていない	子供の所でお金が必要になり貯蓄を回して、その分計画していたのが目減りしているので不安です。
	32	千葉県	働いていない	この先子供をもう一人と考えているが現状生活がギリギリなので悩む。夫の部署が変わる度に給料も変動するので不安。
	44	愛知県	正社員	家計にそれぞれが負担している以外のお金は個々の管理なので、老後のためのお金がいくらかいあるのかわからないため(夫の貯蓄額がわからないため)不安がある
	29	大阪府	産休・育休中	学資保険などかけているが、ライフステージの中で何にどれぐらいの資金が必要なのか明確にわからないし想像があまりつかない。
	24	和歌山県	産休・育休中	私たちの老後には年金がちゃんともらえるのか、もっと貯金しておくべきなのか、保険や通信料の見直しなどしたが他にどこを削ればもっと貯蓄にまわせるのか
	52	兵庫県	働いていない	少しは貯蓄はあるが夫の年齢でこの額は足りているのかどうなのか？
	32	東京都	正社員	貯蓄の世帯年収も平均以上だが、ずっとこの暮らしでいけるか不安がある子供に良い教育をしてあげたいとか子供の負担になりたくないと思うと将来のことが不安。
	32	広島県	正社員	年金制度などどんどん変わって行く中で、先行き不透明なことが多いため。
あまり不安ではない	29	東京都	正社員	老後に必要になる具体的な数字が分からないため、目標設定が出来ていないからです。
	47	東京都	働いていない	それなりの蓄えはあるので贅沢しなければ老後も何とかできるのではと思っている
	51	奈良県	働いていない	たぶん、平均家庭に比べると主人が稼いでいるし、とても誠実できちりっかりしているので金銭管理が行き届いていると思っているから。信用できるから。
	31	東京都	正社員	家計簿をつけているのでキャッシュフローやローンの返済計画など、計画以上に順調なので。
	37	兵庫県	働いていない	現状そんなに贅沢をしているわけでもないし、あまり深く考えてもどうしようもないと思うので。世間並みの収入で並みの生活をしていたら将来もそんなに困ることはないだろうと思うので
	63	東京都	働いていない	子供も独立したので、先行きの不安はあまり感じない。
	39	東京都	3.派遣社員	貯蓄はあまりありませんが、無ければ無いなりに生活を楽しめているので。
	38	神奈川県	2.契約・嘱託社員	貯蓄型の積立をしているのと、住宅ローンと生命保険の見直しをしました。住宅ローンは借り換えの変更をしてメインバンクも変更したので支払いがグッと楽になりました。生命保険の見直しをしたので出費が減りました。『どうしよう』『また今度』と迷ったり後回しにするより専門家に聞いたり行動を起こすと知らなかったお得が分かるので動いてみて良かったです。
	38	神奈川県	働いていない	貯蓄性のある保険に数種類入っているの
	57	埼玉県	働いていない	二人とも浪費家ではないので、現状を維持できれば不安ではないです。
	52	新潟県	正社員	年金と預貯金で何とかかなりそうだと思う
54	徳島県	働いていない	夫の将来への家計管理を、ある程度信頼しているから。	
まったく不安ではない	31	滋賀県	正社員	夫婦共働きを続けられる環境だから
	36	大阪府	正社員	毎月の家計、毎年の貯蓄、ローン返済計画など先を見通して資金計画を持っているので
	42	群馬県	パート・アルバイト	なんとかかなりそうだから
	67	神奈川県	働いていない	子供が独立したのでは、そこそこお金があるし、食べれば良いと思うので。